

国際オートメカニク科			2027年度 授業計画			
時 期	2年後期	単 元	実 習	教科名	車両実習 7	
科 目	自動車整備作業	教科書等 持参品			発行日	2026年2月26日
総時限	33				教科 担当	坂口 正憲
総時間	52.8					石井 隆幸
単 位	1					
1. 指導教員の実務経験 該当 非該当 自動車整備士として車両整備全般の整備の実務経験がある教員により車両部品の分解・組立・点検等について指導する。						
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入） ・実習授業で車両の取り扱い方法と注意点を学び、実際のお客さまの車両を取り扱うことへつなげる目的で行う。 ・法定2年点検を理解し実施できる。 ・正しく記録簿が記入できる。 ・検査ラインが使用できるようにする。						
3. 授業の到達目標（何を理解し何ができるようになるのか） ・お客さまの車両（実習車両）の取り扱い方法を理解する。 ・サークルチェックの意味を理解し、確実に車両のチェックができる。 ・車両ごとに車両保護のカバー類の取り付けが正しくできる。 ・法定2年点検ができる。 ・各種工具の取り扱い、ボルト、ナットの回し方、締付けトルクを理解し、場所に適した工具が使える。 ・安全、確実、スピーディな作業姿勢を体感し、身に付ける。 ・検査機器を取り扱えるようになる。						
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目） ・学科履修試験とレポートルーブリック採点で評価する。学科履修試験は80分間で実施する。 作業の注意点を○×問題、又、レポート評価により100点満点で評価する。 ・合格点：60点以上 80点以上：優 60点以上：良 60点未満：不可 ・不合格の場合、再試験を受験し、60点以上で合格とみなす。 再試験合格の場合、得点に関わらず評価は「可」とする。 ・再試験不合格の場合、学校長の権限により教科判定試験を実施し、合格とみなす場合がある。						
5. 準備学習 ・定期点検整備要領書を確認し、1 2ヶ月点検の項目を復習しておくこと						
6. 学修時間と単位 本科目は、1単位あたり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としている。 1単位の修得に必要な学修時間の目安は、30～45時間の授業および授業時間外学修（予習・復習など）15～0時間である。						

国際オートメカニク科

2027年度 授業計画

時 期	2年後期	単元	実習	教科名	車両実習 7	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	概要 安全作業についてなど				シルフィ（B17）	10
2	エンジンルーム概要				作業台	15
3	エンジンルーム点検				パーツキャディー	15
4	エンジンルーム点検				ウエス	適量
5	エンジンルーム点検				ペーパーウエス	適量
6	エンジンルーム点検				クロスレンチ	10
7	エンジンルーム試験				エアインパクトレンチ	10
8	エンジンルーム試験				プレート型トルクレンチ（230 F	10
9	足回りの概要				プレート型トルクレンチ（920 F	10
10	足回り点検				プリセット型トルクレンチ（1800	10
11	足回り点検				フェンダーカバー	10台分
12	足回り点検				グリルカバー	10台分
13	足回り点検				足マット	10台分
14	足回り試験				ハンドルカバー	10台分
15	足回り試験				シートカバー	10台分
16	下回り概要				ソケット（21）	10
17	下回り点検 検査ライン				サークルチェックシート	学生分
18	下回り点検 検査ライン				リフトアタッチメント	10台分
19	下回り点検 検査ライン				ソケット（30）	10
20	記録簿の記入説明				ラチェット	10
21	下回り試験				ハブロックナットレンチ	10
22	下回り試験				整備記録簿	学生分
23	室内、エンジン始動の概要				タイミングライト	10
24	室内、エンジン始動の点検				プッシュブルゲージ	5
25	室内、エンジン始動の試験				バネばかり	5
26	室内、エンジン始動の試験				ブレーキ踏力計 50kgf	1
27	2年点検通し練習				CO, HCテスト	1
28	2年点検通し練習				タイヤゲージ	10
29	3年点検通し練習				車両1D オンデマンド動画	
30	4年点検通し練習					
31	4年点検通し練習					
32	総合復習					
33	総合復習					
※	実習試験					

※ 期末試験は授業時間に含まない